



新年明けましておめでとうございます。

平成 26 年 1 月 1 日

【甲午の年に因み新しい風と共に飛躍の年になる事を祈念しております！】

水煙会会長 長崎駿二郎

水煙会会員各位に於かれましては、本年も又、新たな気持ちで新年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年は政権の交代から経済面、外交面等で、色々な変化が出てきました。その評価はまちまちですが、多くの人々が、何とかデフレスパイラルを抜けだして「もう少し積極的な日本へ」舵を切ろうと努力した年と言って良いようです。とは言え、次々と打ち出される政策は今一つ消化不良のものも多く、本年がどのような状況になるか「依然不透明で、相変わらず不安定だ」と予想するマスコミ論調が多いようです。

きのえうま

ただ、今年の干支である「甲午」は、風が吹き、色々なものが動き出し、色々な出来事が現れたりする年だそうです。それゆえ着実な準備を心掛けていれば、多いに「飛躍」が期待できるとの事だそうです。

しかし、私のような平凡な日々を過ごしている者にとってはあまり飛躍を望めそうもありませんが、せめて水煙会だけは、僅かでも良いですから「何かで飛躍出来たら」と願っております。

そして、今年の飛躍につながるような新しい試みと言えば、昨年 11 月 8 日「水煙会秋のセミナー」を東京スカイツリーで開催し、初めて大学の授業の一環として位置付けて戴き、60 名近い在校生諸君が参加してくれた事です。講師は、東武鉄道でこの企

画から参加し、今まさにその運営の責任者でもある黒田さんと建設の責任者で辣腕をふるった大林組の田辺さんで、世界一の電波塔とその足元の街づくりの企画、建設、運営について直接「生の声」を聞け、洵に迫力ある講演会でした。講演後に多くの学生達から「我々の学校にはこんな凄い事をやった先輩がいるのだ。知らなかったなあ！」と言う感想を貰いました。

着任以来、平成年代の卒業生や在校生の皆さんに、何とか水煙会の存在を知って貰おうと腐心してきただけに、こちらは逆の意味でこの感想に感激し、水煙会の会員には「まだまだ凄い事をやっている先輩」が沢山いる事を、これからも知らせて行きたいと思いました。

たまたま、時同じくして大学側も「横浜国大の卒業生は横浜国大の財産である」と言う方向へと舵を切り始め、本年4月から中央図書館に「プラウド卒業生コーナー」を設たり、横浜国大の卒業生を始め多くの関係者を一つの会にまとめる「YNU校友会」を来年4月より発足させ、大学の評価を飛躍させようとしております。

水煙会が、引き続き在校生と卒業生の交流を促進する活動に力を入れて行けば、必ずや学生達の意欲に繋がり、ひいては卒業生の刺激となり、更には実社会へのプレゼンス、大学の評価向上、と言った飛躍に繋がって行くものと思っております。日本も7年後のオリンピックを切掛けに、今年あたりから、何か違った風が吹き始めるのではないかと感じています。本年3月をもちまして4年間の水煙会会長職は退任いたしますが、次なる新しい執行役の方々が今年のこの風をうまく活用して、更なる飛躍を下さる事を切に希望しております。また、残り時間が3か月ほどありますが、この4年間、色々な水煙会の活動にご協力、ご支援戴きました、会員各位に改めて感謝申し上げます、本年の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念致します。

以上